



「かわさき電子図書館」の 本格実施について



令和5年3月から「かわさき電子図書館」の試行実施を開始



電子図書館の特徴 ～いつでも どこでも もっと便利に！～

非接触・非来館型

- PCやスマホでいつでもどこでも24時間利用
- 期限が来たら自動返却（延滞なし！）

様々な読書ニーズ対応

- 文字の大きさ変更可能
- 読上げ機能
- 多言語対応
- 動画・音声付き絵本

学校教育との連携

- GIGA端末を利用した児童生徒の読書普及
- 学校の授業に利用可能
- モデル校で検証



対象者

市内に在住・在勤・在学の方で
図書館貸出カードをお持ちの方

コンテンツ数

5, 964点

(タイトル数5, 528点)

※買切り型…5,742点

読み放題パック…4種・児童生徒向け222点

※令和6年9月時点



貸出・予約点数

3点まで

貸出期間

2週間

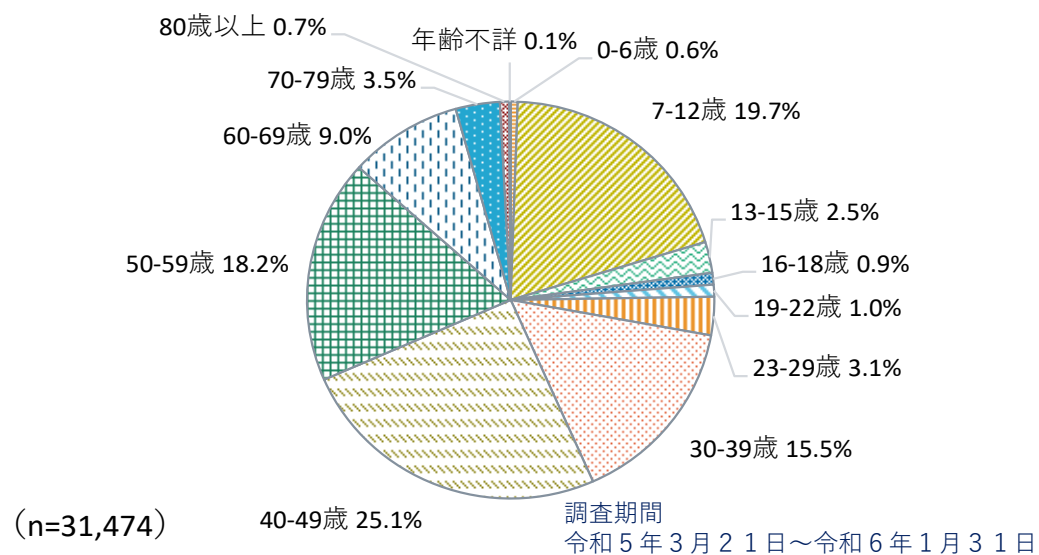
利用料

無料

※インターネット接続料は利用者負担

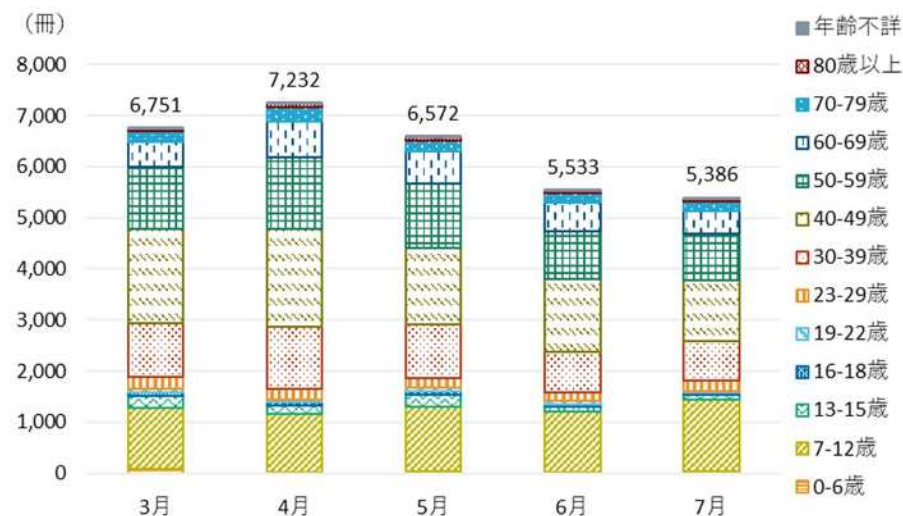
試行実施における利用状況

年代別貸出数の割合



年代別では、7～12歳の小学生世代及び30～50代の子育て・働き世代の利用が活発だが、13～18歳の中高生世代～20代は利用が少ない。

年代別貸出数の推移 (令和5年)



約5,000コンテンツの展開の中で、開始から月平均約6,300件の貸出しがあり、順調に利用がされていることが分かる。導入直後は利用が多いが、5月以降は減少傾向にあり、導入当初の新鮮度が下がってきていることが考えられるため、広報とコンテンツの充実が必要になる。



試行実施における利用状況

電子書籍の利用実績（令和5年度）

- ・利用者数（ログイン者数）

13,174人

- ・貸出冊数（合計）

67,701冊

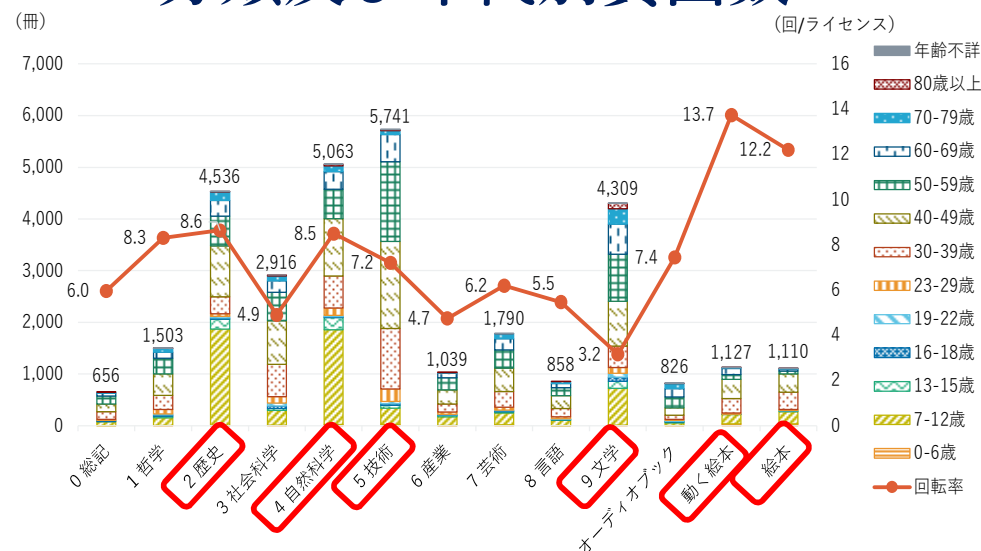
- ・閲覧数（合計）

162,324件



月平均で貸出冊数約5,600冊、閲覧数約13,500件となっており、年間を通して継続的な利用がされている。

分類及び年代別貸出数



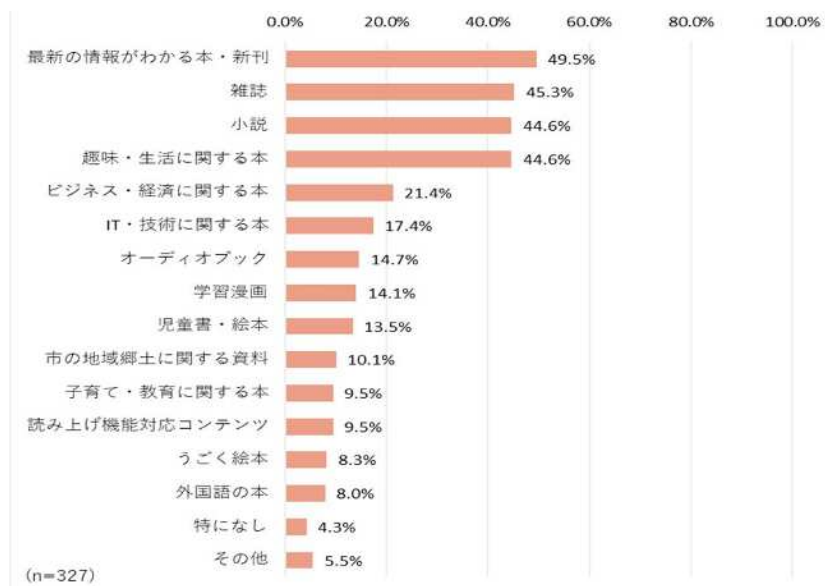
学習漫画を含む歴史、自然科学で小学生世代の利用が多い。
レシピ本を中心に技術の家庭・生活で30～50歳代の利用が多い。
文学は利用が多いものの、読み終えるまでに時間がかかるため、回転率は低い。
動く絵本・絵本はコンテンツ数が限られている一方で、短時間で読み終えるため、回転率が高い。



利用者の声

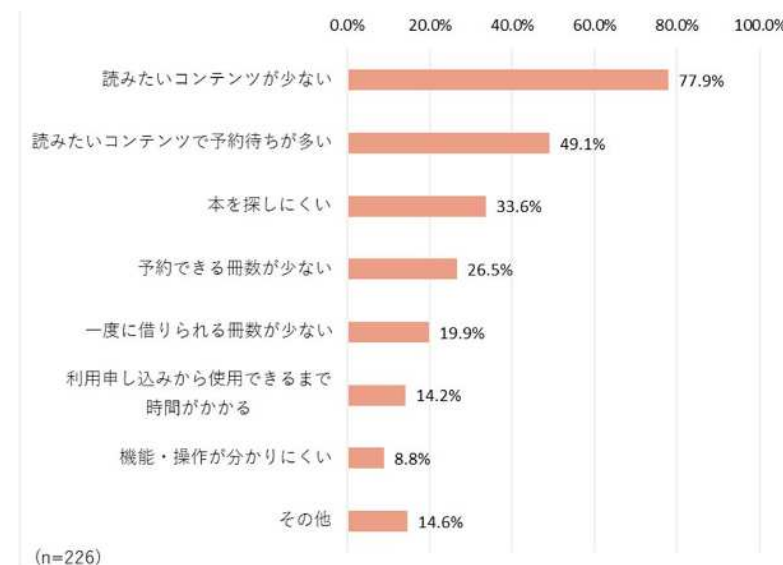
令和5年8月実施
「かわさき電子図書館利用者アンケート」結果から

充実してほしいコンテンツ



「最新の情報がわかる本・新刊」が最も多く、次いで「雑誌」「小説」「趣味・生活に関する本」が多く、いずれも4割以上を占める。

改善してほしい点



「読みたいコンテンツが少ない」、「読みたいコンテンツで予約待ちが多い」が上位を占めていることから、コンテンツ規模がニーズに追い付いていない状況が伺える。
「その他」の回答としては、予約していたコンテンツが確保されても通知・メール等がないことに対して改善を求める声が多かった。



試行実施における利用状況

【モデル校での取組】

東大島小学校

(令和5年7月から
朝の読書活動等にて活用)

児童の声

- ・ 絵や写真を大きくできるのがよかった。
- ・ 暑くて外に出られなかった時、電子書籍をいっぱい読んだ。

先生の声

- ・ どこを読んでいるか分からなくなる児童がハイライト機能を使って、落ち着いて読書ができていた。
- ・ 日本語が苦手な子でも電子書籍なら読みやすいようだった。
- ・ 特別支援学級では、音声が出ることから子どもたちが一生懸命に読んでいた。

南河原中学校

(令和5年9月から
朝の読書活動等にて活用)

生徒の声

- ・ 学校図書館にはない本が、たくさんあって面白い。
- ・ 本を買ったり借りなくても、すぐに読めるのがよかった。

先生の声

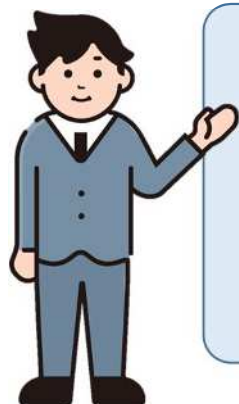
- ・ 電子書籍はGIGA端末で使えるので、本を買いに行ったり、図書館に行く必要がなく、時間のない中学生には適している。
- ・ 調べ学習での電子書籍活用の可能性を感じた。
- ・ 電子書籍の導入によって読書の入口が広がる。
- ・ 「夏休みの読書感想文」などの課題で活用できる。



調査により、利用状況、改善すべき点を把握することができたことから

令和6年10月22日（火）…本格実施開始！

利用者にとって、より魅力的なサービスにするため、
新規の利用者の獲得や現在の利用者に継続して御利用いただける取組を行う。



【本格実施の主な内容】

- 1 図書館総合システムとの連携による利便性の向上
- 2 コンテンツの充実



【本格実施の主な内容】 1

図書館総合システムとの連携による利便性の向上

【現状】

かわさき電子図書館、図書館総合システム、
それぞれパスワードを設定する必要がある。
⇒紙の書籍・電子書籍それぞれ予約したいとき等パスワードを入れ直す必要がある。

紙の書籍と電子書籍の蔵書検索や貸出状況など、
それぞれのシステムから行う必要がある。
⇒同時に検索することはできない。

図書館総合システムにメールアドレスを登録していても、
予約した電子書籍が用意できたか等を電子図書館で都度確認する必要がある。

かわさき電子図書館の利用は、利用登録の翌日から可能となる。

【本格実施後】

かわさき電子図書館、図書館総合システムの
パスワードを統一する。
⇒図書館HPから電子図書館へのページ間移動時にパスワードを入れ直す手間が**不要**になる。

図書館総合システム上で、蔵書検索や貸出状況など、
紙の書籍と電子書籍を分けずに行うことができる。

図書館総合システムにメールアドレスを登録していれば、
予約した電子書籍が用意できたこと等を知らせるメールが届く。

かわさき電子図書館が利用登録と同時に利用可能になる。



【本格実施の主な内容】 2
コンテンツの充実

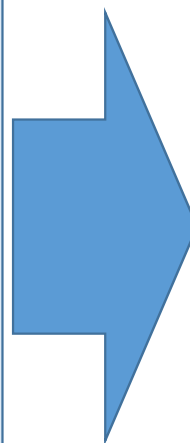
【現状】

・買切り型コンテンツ
(一度購入するとずっと利用できる)
⇒現在5,742点を購入

・読み放題パック
(一度に複数人で閲覧できる)
⇒222点 (児童生徒向け 4 種)

・有期限型コンテンツ
(2年間等の期限あり)
⇒未購入

貸出可能期間の制限はあるが、小説を中心とした新しいコンテンツが豊富



【本格実施後】

・買切り型コンテンツ及び読み放題パック
⇒学校利用充実のための児童書など、魅力的なコンテンツを引き続き購入

・有期限型コンテンツ **NEW**
⇒本格実施時に約1,500コンテンツを追加購入
今後も随時購入し拡充を予定

・企業との連携(協賛者名つき電子本棚) **NEW**
⇒市内企業から電子書籍を購入するための費用を寄附いただく仕組みを整え、コンテンツの多様化を図る。

※協賛企業が打ち出したい内容や企業イメージに合う電子書籍を集めた本棚を作成するための費用を寄附いただき、それらの電子書籍を集めた電子本棚に企業名を入れます。